

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

平成 29 年度病虫害発生予察技術情報第 15 号について

このことについて、病虫害発生予察技術情報第 15 号（イチゴのハダニ類について）を発表したので送付します。

イチゴのハダニ類については、11月に一部のほ場で多発したものの、寒波と定期的な防除により、12月は全体的に平年よりも少なく推移していますが、依然として寄生株率が10%を超えるほ場もあります。

ハダニ類は薬剤感受性の低下が顕著であり、多発後は防除が困難になるので、今後の発生状況に注意し、初期防除を徹底しましょう。

技術情報第 15 号

イチゴのハダニ類について

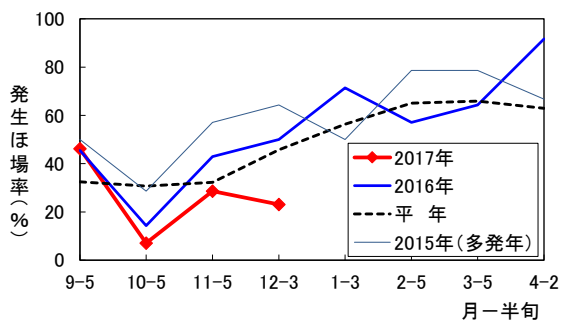
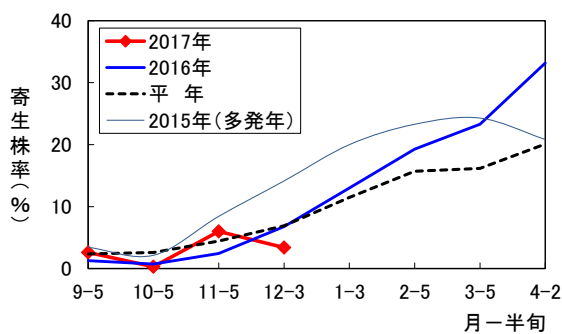
1 対象作物名：イチゴ

2 病虫害名：ハダニ類

3 発生状況

12 月 3 半旬調査の結果、寄生株率は 3.4%、発生ほ場率は 23.1%であった。

- ・12 月 3 半旬の寄生株率 3.4% (平年 6.9%、前年 6.8%、前前年 (多発年) 14.1%)
- ・12 月 3 半旬の発生ほ場率 23.1% (平年 45.7%、前年 50%、前前年 (多発年) 64.3%)



調査ほ場	寄生株率 (%)
A	4
B	0
C	0
D	0
E	0
F	0
G	0
H	30
I	0
J	0
K	10
L	0
M	—
N	0
平均	3.4

ハダニ類の発生推移

各調査ほ場ごとのハダニ類の発生状況  
(12月3半旬調査、発生ほ場率23.1%)

#### 4 薬剤感受性の状況

イチゴのナミハダニの薬剤感受性については下記の表の通りで、地域ごとの個体群による差はあるが、安定して効果の高い薬剤は少ない状況です。

イチゴナミハダニ雌成虫に対する殺虫効果

個体群	補正死虫率(%)						
	コロマイト 水和剤 6 2,000倍	アフーム 乳剤 6 2,000倍	カネマイト フロアブル 20B 1,000倍	スターマイト フロアブル 25A 2,000倍	ダニサラバ フロアブル 25A 1,000倍	ダブルフェース フロアブル 25B, 21A 2,000倍	マイトコーネ フロアブル 25A 1,000倍
A	8.3	87.4	72.3	55.6	3.7	37.0	90.6
B	12.9	90.3	22.6	89.3	18.9	21.9	71.5
C	28.6	96.8	32.5	55.4	22.4	57.1	18.7
D	16.0	57.7	25.0	21.8	16.0	13.2	47.7
E	26.9	100	39.4	72.0	48.5	48.1	100
F	0.5	81.3	52.8	69.0	0.9	89.8	91.7
G	42.6	100	100	63.1	92.6	93.5	100
H	81.5	100	88.9	65.6	31.1	53.3	96.3
I	55.1	100	100.0	74.4	47.1	96.3	100

イチゴナミハダニ卵（ふか幼虫）に対する殺虫効果

個体群	補正死亡率(%)						
	コロマイト 水和剤 6 2,000倍	アフーム 乳剤 6 2,000倍	カネマイト フロアブル 20B 1,000倍	スターマイト フロアブル 25A 2,000倍	ダニサラバ フロアブル 25A 1,000倍	ダブルフェース フロアブル 25B, 21A 2,000倍	マイトコーネ フロアブル 25A 1,000倍
A	99.7	100	100	98.7	86.3	96.7	86.7
B	100	100	100	94.8	25.0	47.0	97.5
C	100	100	100	97.4	36.9	97.6	98.7
D	100	100	100	100	80.4	100	57.1
E	98.7	100	98.4	100	65.7	93.3	94.8
F	49.4	100.0	100.0	100.0	81.9	100.0	98.1
G	100	100	100	99.5	88.4	100	99.6
H	100	100	100	99.5	54.7	85.6	70.7
I	100	100	100	78.2	64.2	94.6	69.4

- 注) 1. 2016年3~5月に県内の10地域より採取した個体群を用いて、当試験場病害虫部にて検定。  
 2. 網かけ・太字は補正死虫率70%以下（70%以下は薬剤の効果が低下していると考えられる）。  
 3. 薬剤名の下段の記号はIRACコード。

## 5 防除上注意すべき事項

- (1) ハウス内外の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。除草した雑草や摘葉した葉はハウス内に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し処分する。
- (2) 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底する。なお、防除は摘葉後に行うと効果的である。
- (3) ハダニ類に登録のある薬剤の多くは浸透移行性が乏しいため、必要に応じて展着剤を加用し、葉裏に薬液が十分付着するよう防除を行う。
- (4) 抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布の中に気門封鎖剤も組み入れ、効果的な防除に努める。
- (5) 薬剤感受性が低下しているため天敵の利用を推奨するが、天敵を利用する場合は、天敵に影響が少ない薬剤でハダニの密度を低下させ、薬剤の影響日数を考慮して天敵を放飼する。



ナミハダニの雌成虫および卵



ナミハダニが多数寄生した葉裏

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jpnn.ne.jp/fukuoka/>

